



# Book Review

## 楽しくできる予防歯科 みんなでつくる well-being 歯科医院

NPO 法人ウェルビーイング 編

中村譲治先生ら、NPO 法人ウェルビーイングの皆さんが3冊目の予防歯科の本を上梓された。譲治先生はいまから遡ること30数年前、むし歯の洪水といわれた時代に仲間とともに福岡予防歯科研究会を作られて以来、予防歯科の普及に精力的に取り組んでこられた。その歩みは『明日からできる診療室での予防歯科』（1998年）、『明日からできる地域での予防歯科』（2003年）にまとめられているが、本書はその到達点を示す内容に仕上がっている。

譲治先生は、学生時代に友人とブルーグラスのバンドを組み、バイオリン奏者として活躍されていた。ご尊父は、福岡市歯科医師会会長を務められた中村正雄先生で、スマートな言葉運びの博多弁で語られるロマン溢れる施策に、惹かれた歯科医や歯科衛生士も多かった。譲治先生の演奏の合間の語りはまさにご尊父譲りで、夢とロマンに満ち溢れていた。

そんなお姿を目にしていた私は、譲治先生が予防歯科の勉強会をスタートさせたと聞いたとき、「面白い試みだが、ええとこの坊ちゃんが理想を追っているだけで、経営は成り立たないだろう」と思った。当時の私はといえば、保母須弥也先生にご紹介いただいた Peter K. Tho-

mas 先生に師事し、フルマウスの補綴に熱中していた。咬合の崩壊した悲惨な状態の患者さんが来院されると、胸を高鳴らせて治療に取り組んだものである。しかし、患者さんの笑顔と感謝の言葉を、歯科医冥利に尽きると喜ぶことができたのは治療後十数年までであった。開業して20年も経つと、治した状態を長く維持することの難しさ、高齢化に伴って起こるさまざまな問題に対処することの難しさを痛感するようになった。

かつて Peter K. Thomas 先生が、「歯科医を続けてきて、一番大切だと思うことは予防だ」とおっしゃっていたが、私はその真意を長く理解できずにいた。しかし、どんなに美しい治療も10年、20年ともたせることは難しい。ならば、審美歯科の究極の姿は予防歯科ではないか。それを理解するのに、私はずいぶんと遠回りをしてしまった。

譲治先生らは、幼稚園や保育園での齲蝕予防から活動を開始されたが、その後は診療室での予防歯科にも力を入れてこられた。最近では、予防歯科の目的を単に疾病をなくすことにおくのではなく、人々が元気で幸せな状態（well-being）になるのを手助けするために、生活、ひいては人生に寄り添うことにおかれているという。



B5判、180頁  
定価 4,830円  
(本体 4,600円 + 税 5%)  
医歯薬出版刊

本書では、このような予防歯科の理念を総論的にまとめたうえで（1, 2章）、さまざまな年代に合わせた手助けの仕方を具体的に解説している（3章）。そして、well-being 歯科医院を目指す読者のために、システムづくりの実際を紹介し（4章）、医院の自己評価の必要性と方法、尺度にも言及している（5章）。さらには、院外にも活躍の場を広げ、学校歯科保健からホームレスの方々の歯科保健まで、パブリックケアの役割までも担っておられる（6章）ことには、ただただ敬服するばかりである。本書は、予防歯科を志すすべての歯科医療関係者必読の書であり、特に若い歯科医と歯科衛生士の皆さんに一読を勧めたい。

河原英雄  
(大分県・河原英雄歯科医院)